

|| 企業調査レポート ||

価値開発

3010 東証 2 部

[企業情報はこちら >>>](#)

2018 年 1 月 22 日 (月)

執筆：客員アナリスト

角田秀夫

FISCO Ltd. Analyst **Hideo Kakuta**



FISCO Ltd.

<http://www.fisco.co.jp>

目次

■ 要約	01
■ 会社概要	03
1. 沿革	03
2. 事業内容	03
3. ホテル事業：ベストウェスタンホテル	03
4. ホテル事業：バリュー・ザ・ホテル	04
■ 業績動向	05
1. 2018年3月期第2四半期の業績動向	05
2. 2018年3月期通期の業績見込み	06
3. 財務状況	07
■ 成長戦略	08
■ 株主還元策	10
■ 情報セキュリティ	10

■ 要約

世界ブランド「ベストウェスタン」を展開中。 2018 年 3 月期は 新規ホテルを 4 棟オープンし売上高 50 億円維持の予想

価値開発 <3010> は、世界ブランド「ベストウェスタンホテル」の国内展開権利を持つホテル運営会社である。その歴史は古く、創業は 1912 年（大正元年）に遡り 100 年以上の歴史を持つ。製糸業で業界大手の一角を占めていたが、繊維不況を契機に不動産業に参入。不動産業がメインとなっていた 2008 年に価値開発株式会社に社名を変更した。同年、(株)フィーノホテルズを子会社化し、ベストウェスタンホテルのエリア開発会社となり、ホテル事業の足掛かりを築いた。リーマンショックで不動産市況が悪化してからは、事業主体をホテル事業にシフト。2011 年 3 月期にはホテル事業が不動産事業の売上高を逆転、2018 年 3 月期第 2 四半期のホテル運営事業の構成比は 97.0% を占める。2015 年には東京証券取引所の所属業種を「不動産業」から「サービス業」に変更した。

ベストウェスタンホテルは、世界最大級のワールドホテルチェーンであり、全世界の 100 を超える国と地域に 4,000 以上のホテルを展開しており、安心安全なハイパフォーマンスホテルとしてその名を知られている。同社は、2008 年に日本国内における唯一のエリア開発会社（ADO：Area Development Organization）となり、ベストウェスタンの国内展開を行う。現在同社が運営に関わるベストウェスタンホテルは合計 12 棟であり、複数の計画が進行中だ。主体はビジネスホテルだが、沖縄で 2 棟のリゾートホテルを始めた。訪日外国人旅行者（インバウンド）の比率は高く、多いホテルでは約 8 割、少ないホテルでも約 3 割が外国人である。特に東京を始め名古屋、京都、大阪、広島、福岡、札幌などの大都市圏を優先的に進出を検討する。

2018 年 3 月期第 2 四半期の売上高は 2,412 百万円（前年同期比 27.2% 減）、営業損失 43 百万円、経常損失 83 百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失 114 百万円となり、減収減益となった。運営ホテル数の減少に伴い売上高が減少し、2017 年 9 月にベストウェスタン大阪塚本をオープンしたものの補うには至らなかった。なお、第 2 四半期の売上高計画に対しては実績が上回っており、既存ホテルの運営自体は順調に推移している。利益面に関しては、新規ホテルのオープンにかかる設備等を費用として計上したこと、人員確保のための採用コストや人件費の増加などにより営業損失を計上した。

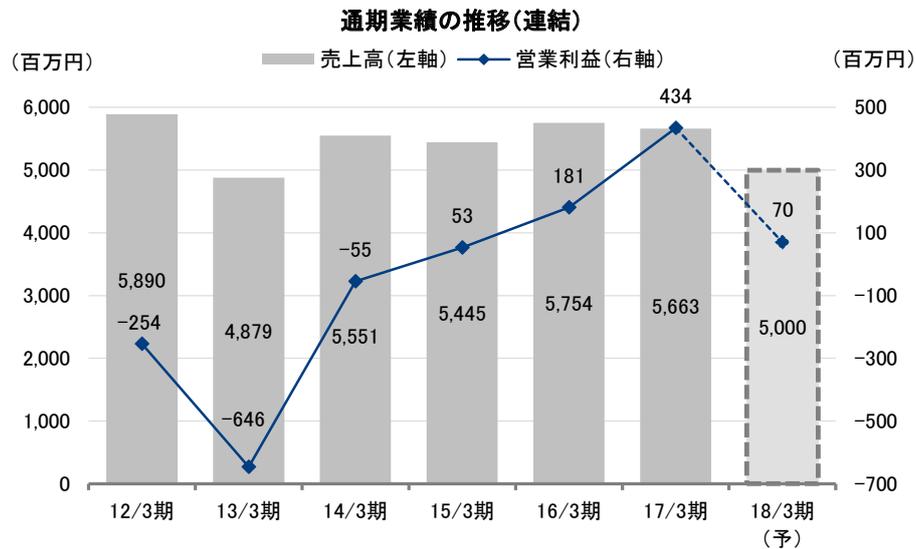
2018 年 3 月期は、売上高 5,000 百万円（前期比 11.7% 減）、営業利益 70 百万円（同 83.9% 減）と期初の計画を下方修正した。2018 年 3 月期上期に 1 棟（ベストウェスタン大阪塚本）、2018 年 3 月期下期に 3 棟（ベストウェスタン山形エアポート、パリュウ・ザ・ホテル檜葉木戸駅前、ベストウェスタン札幌大通公園）がオープンするものの、前期の売上高をカバーするまでに至らない予想だ。売上高の第 2 四半期進捗率は 48.2% となっているため、新規オープン効果により確実に予算は達成しそうだ。上期には開店準備のためのコストの負担が大きく営業損失となったが、下期には順調にそれらのホテルが開業し利益に貢献する予想だ。

要約

同社の成長ドライバーはベストウェスタンホテルの新規開業である。2021年3月期に全国30棟を目指しており、年間4棟から5棟のペースで開業する計画だ。2018年に計画している新規オープンは、札幌大通公園、千歳、東京秋葉原、大阪北浜の4棟である。既存ホテルの宿泊者の利便性向上に向けては、客室設置型タブレット「イータブ・プラス」の導入、中国国内でモバイル決済シェア最大のアプリ「Alipay（アリペイ）」の導入など地域の特性に応じた取り組みを行う。

Key Points

- ・2018年3月期第2四半期は、運営ホテル数の減少と新規オープン準備費用で減収減益
- ・2018年3月期は新規ホテルを4棟オープンし売上高50億円維持の予想
- ・2018年のベストウェスタンブランドの新規ホテル開業は4棟予定。地域に応じた特色のある取り組みが強み



出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 会社概要

創業 100 年を超える歴史ある企業、ホテル運営事業で“ 第三の創業 ”

1. 沿革

同社は、1912年（大正元年）に創業され100年以上の歴史を持つ。当時の社名は上毛撚糸（じょうもうねんし）株式会社であり、群馬県で製糸業を営み業界大手の一角を占めていた。繊維不況を経て、1973年に不動産業に参入。その後不動産業がメインとなり、2006年に東京証券取引所の所属業種を「繊維」から「不動産」に変更、2008年には価値開発株式会社に社名を変更した。同年、フィーノホテルズを子会社化し、ベストウェスタンホテルのエリア開発会社となり、ホテル事業の足掛かりを築く。リーマンショックで不動産市況が悪化し、不動産事業主体からホテル事業にシフトした。2011年3月期にはホテル事業が不動産事業の売上高を逆転。2012年には東日本大震災復興支援プロジェクトの一環としてパリュウ・ザ・ホテルを開業。2015年には東京証券取引所の所属業種を「不動産業」から「サービス業」に変更した。

2. 事業内容

同社の中核事業はホテル事業である。全国で展開する都市型ビジネスホテル「ベストウェスタンホテル」が12棟、東北に限定して展開する中長期滞在型ホテル「パリュウ・ザ・ホテル」が6棟あり、この2ブランドがメインである。全社売上高の97.0%、全社営業利益の72.4%を稼ぐ。不動産事業ではマンションを中心とした保有物件の賃貸・管理を行う。かつて大きな割合を占めたが、ホテル事業にシフトするなかでその位置付けを低下させ、現在は売上高の3.0%、営業利益の27.6%となっている（いずれも構成比は2018年3月期第2四半期）。

事業の内容と構成（連結、2018年3月期第2四半期）

事業セグメント	主な業務内容	売上高構成	営業利益構成
ホテル事業	都市型ビジネスホテル「ベストウェスタンホテル」と中長期滞在型ホテル「パリュウ・ザ・ホテル」の2ブランドのホテル運営が中核	97.0%	72.4%
不動産事業	マンションを中心とした保有物件の賃貸・管理	3.0%	27.6%

出所：決算短信よりフィスコ作成

3. ホテル事業：ベストウェスタンホテル

ベストウェスタンホテルは、世界最大級のワールドホテルチェーンであり、全世界の100を超える国と地域に4,000以上のホテルを展開しており、安心安全なハイパフォーマンスホテルとしてその名を知られている。ホテルのグローバルランキング(2016年)では、8位(4,195棟)にランクインする。特に北米で2,100棟、欧州で1,400棟のホテルがあり、欧米から日本を訪れる海外旅行者においては圧倒的な知名度を誇る。ベストウェスタンチェーン専用の予約サイト Best Western.com には世界2,000万人の会員がおり、安定的な予約が期待できる。現在、アジア・ミドルイーストエリアのホテル数は100棟を超え、今後も出店計画が多数進行中であり、今後更にブランド認知度の上昇が期待される。同社は、2008年に日本国内における唯一のエリア開発会社（ADO：Area Development Organization）となり、ベストウェスタンの国内展開を行っている。

会社概要

日本において同社が運営に関わるベストウェスタンホテルは合計12棟(東北2棟、関東4棟、中部1棟、関西2棟、九州・沖縄3棟)である。主な運営形態は、1) 物件所有者から賃貸をして運営するパターン、2) 運営業務のみを受託するパターン、3) 運営はFC会社が行うが同社が主に開業時にコンサルティングを行うパターンがあり、現在はFCのパターンが5棟である。また、主体はビジネスホテルだが、沖縄の2棟はリゾートホテルである。訪日外国人旅行者(インバウンド)の比率は高く、多いホテルでは約8割、少ないホテルでも約3割が外国人である。部屋タイプは欧米系インバウンド宿泊者の好むダブルルーム、アジア系インバウンド宿泊者の好むツインルーム、トリプルルームを充実させ、インバウンド宿泊需要に応えられるよう配慮している。ベストウェスタンの設備や運営の基準は厳格であり、ベッドの大きさ、食堂のメニュー、セキュリティなど多岐にわたり、専門の査察人員が定期的に評価をする。同社は、この世界的なブランドを守り、拡大していく重要な役割を担っている。

『ベストウェスタン』の全国展開12ホテル(2017年10月末現在)

2017年10月オープン					
98室 Best Western 山形エアポート (山形県東根市)	99室 Best Western THE JAPONAIS 米沢 (山形県米沢市)	184室 Best Western 東京西葛西 (東京都江戸川区)	105室 Best Western 東京西葛西クラッチ (東京都江戸川区)	100室 Best Western レンブラントホテル東京町田 (東京都町田市)	185室 Best Western 横浜 (神奈川県横浜市)
2017年9月オープン					
140室 Best Western ホテル名古屋 (愛知県名古屋)	105室 Best Western 大阪塚本 (大阪府大阪市)	179室 Best Western ホテルフィノ大阪心斎橋 (大阪府大阪市)	198室 Best Western レンブラントホテル鹿児島リゾート (鹿児島県鹿児島市)	49室 Best Western 沖縄皇納ビーチ (沖縄県国頭郡恩納村)	64室 Best Western 沖縄幸喜ビーチ (沖縄県名護市)

■フランチャイズホテルを含め全国主要都市を中心に12店舗を展開しております。本年度においては、9月に『ベストウェスタン大阪塚本』10月に『ベストウェスタン山形エアポート』をオープンしております。

出所：決算補足説明資料より掲載

4. ホテル事業：バリュー・ザ・ホテル

バリュー・ザ・ホテルは、東日本大震災の復興支援を目的として、同社が主体に運営を開始したホテルであり、宮城県に4店舗、福島県に2店舗ある。中長期滞在者が快適に宿泊できるよう、1泊2食でリーズナブルな価格(6,000円前後)、シングル個室中心、コインランドリー施設の充実などが特長である。古川三本木店513室、東松島矢本店423室など収容人数が多く、復興従事者だけでなく、大型団体・学生やスポーツ団体、通常のビジネス客などにも柔軟に対応する。

会社概要

バリュー・ザ・ホテルの展開

314室
シングル 274m
セミダブル 18m
ダブル 18m
レジデンス 4m

① バリュー・ザ・ホテル 仙台名取
〒981-1222 宮城県名取市上余田字千刈田555-1

82室
シングル 73m
セミダブル 5m
ダブル 2m
ツイン 2m

② バリュー・ザ・ホテル 石巻
〒986-0814 宮城県石巻市南中里3-15-37

513室
シングル 472m
セミダブル 4m
ツイン 33m
レジデンス 4m

③ バリュー・ザ・ホテル 古川三本木
〒989-6322 宮城県大崎市三本木南谷地字千刈田146

423室
シングル 386m
ツイン 25m
トリプル 7m
ビジネス 5m

④ バリュー・ザ・ホテル 東松島矢本
〒981-0504 宮城県東松島市小松字谷地215

275室
シングル 275m

⑤ バリュー・ザ・ホテル 広野
〒979-0401 福島県双葉郡広野町大字上北迫字岩沢29-130

107室
シングル 107m

⑥ バリュー・ザ・ホテル 楳葉木戸駅前
〒979-0513 福島県双葉郡楳葉町大字山田岡字一升平7-1

福島第一原発から25km内 福島第一原発から20km内

出所：決算補足説明資料より掲載

業績動向

2018年3月期第2四半期は、 運営ホテル数の減少と新規オープン準備費用で減収減益

1. 2018年3月期第2四半期の業績動向

2018年3月期第2四半期の売上高は2,412百万円（前年同期比27.2%減）、営業損失43百万円、経常損失83百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失114百万円となり、減収減益となった。売上高に関しては、訪日外国人旅行者が増加するなか、同社運営のホテルにおいても高稼働率・高客室単価を維持したものの、前期に札幌と大分のホテルの賃貸借契約の途中解約により運営ホテル数が減少したため、2017年9月にベストウェスタン大阪塚本をオープンしたものの補うには至らなかった。なお、第2四半期の売上高計画に対しては実績が上回っており、既存ホテルの運営自体は順調に推移している。利益面に関しては、新規ホテルのオープンにかかる設備等を費用として計上したこと、人員確保のための採用コストや人件費の増加などにより営業損失を計上した。第2四半期の営業利益計画よりも実績が下回った要因としては、当初資産として計上する予定であった新規ホテルのオープンにかかる設備等の投資を費用として計上したことが挙げられる。

業績動向

2018年3月期第2四半期実績

(単位:百万円)

	17/3期2Q		期初計画	18/3期2Q		前年同期比
	実績	構成比		実績	構成比	
売上高	3,315	100.0%	2,300	2,412	100.0%	-27.2%
売上総利益	2,755	83.1%	-	1,967	81.6%	-28.6%
販管費	2,308	69.6%	-	2,010	83.3%	-12.9%
営業利益	447	13.5%	50	-43	-1.8%	-
経常利益	392	11.8%	20	-83	-3.4%	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	283	8.5%	0	-114	-4.7%	-

出所:決算短信よりフィスコ作成

2018年3月期は新規ホテルを4棟オープンし 売上高50億円維持の予想

2. 2018年3月期通期の業績見込み

2018年3月期は、売上高5,000百万円(前期比11.7%減)、営業利益70百万円(同83.9%減)、経常利益30百万円(同95.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益10百万円(同79.0%減)と期初の計画を下方修正した。売上高の減少は、前期に賃貸借契約の途中解約となった札幌と大分のホテルの売上減少分が大きい。2018年3月期上期に2棟(ベストウェスタンホテル山形エアポート、ベストウェスタンホテル大阪塚本)、2018年3月期下期に2棟(パリュー・ザ・ホテル樺葉木戸駅前、ベストウェスタンホテル札幌大通公園)が開店するものの、前期の売上高をカバーするまでに至らない予想だ。売上高の第2四半期進捗率は48.2%となっているため、新規オープン効果により確実に予算は達成しそうだ。上期には開店準備のためのコストの負担が大きく営業損失となったが、下期には順調にそれらのホテルが開業し利益に貢献する予想だ。

2018年3月期連結業績予想

(単位:百万円)

	17/3期		予想	18/3期		
	実績	構成比		構成比	前期比	2Q進捗率
売上高	5,663	100.0%	5,000	100.0%	-11.7%	48.2%
営業利益	434	7.7%	70	1.4%	-83.9%	-
経常利益	662	11.7%	30	0.6%	-95.5%	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	48	0.8%	10	0.2%	-79.0%	-

出所:決算短信よりフィスコ作成

自己資本比率 32.7%、今後も資産の圧縮と財務の健全化を進める計画

3. 財務状況

2018年3月期第2四半期末の総資産残高は、364百万円増（前期末比）の4,727百万円となった。主な要因は固定資産の424百万円増であり、なかでも投資その他の資産の増加が影響した。

負債合計は、481百万円増（前期末比）の3,178百万円となった。主な要因は流動負債の273百万円増及び固定負債の209百万円増であり、それぞれ短期借入金及び長期借入金の増加の影響が大きかった。

経営指標（2018年3月期第2四半期末）では、流動比率65.7%と引き続き短期的な安全性に課題を残す。有利子負債は増えたものの、自己資本比率は32.7%（2018年3月期第2四半期末）と安全性に懸念はない。不動産事業の固定資産の売却余地がまだあるため今後も資産の圧縮と財務の健全化を進める計画だ。

2017年12月には、今後開業する新規ホテルにかかる敷金の差入や設備等への支出などに充当するため、シンジケートローン契約（600百万円、参加金融機関は（株）東京都民銀行及び富山第一銀行<7184>）を締結し、機動的かつ安定的な資金調達体制を整っている。

連結貸借対照表、経営指標

（単位：百万円）

	17/3 期	18/3 期 2Q	増減額
流動資産	848	787	-60
（現金及び預金）	427	369	-58
（受取手形及び売掛金）	274	226	-48
固定資産	3,516	3,940	424
（投資その他の資産）	2,824	3,239	415
総資産	4,363	4,727	364
流動負債	926	1,198	273
（短期借入金）	138	364	226
固定負債	1,772	1,980	209
（長期借入金）	1,342	1,565	223
負債合計	2,697	3,178	481
純資産合計	1,666	1,549	-118
負債純資産合計	4,363	4,727	364
<安全性>			
流動比率（流動資産÷流動負債）	91.6%	65.7%	-
自己資本比率（自己資本÷総資産）	38.1%	32.7%	-

出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 成長戦略

2018年のベストウェスタンブランドの新規ホテル開業は4棟予定。 地域に応じた特色のある取り組みが強み

同社の成長ドライバーはベストウェスタンホテルの新規開業である。2021年3月期に全国30棟を目指しており、年間4棟から5棟のペースで開業する計画だ。2018年12月までに計画している新規オープンは、札幌大通公園、千歳、東京秋葉原、大阪北浜の4棟である。

札幌大通公園は、札幌市の中央部に位置しビジネスや観光の起点となるロケーション。札幌市営地下鉄大通駅徒歩7分、客室数60室。ベストウェスタンブランドで直営展開する。2018年2月の開業予定である。

千歳は、北海道の空の玄関口である新千歳空港から2駅の至近距離に立地する。JR千歳線千歳駅徒歩7分、客室数154室。ベストウェスタンブランドで直営展開する。2018年5月の開業予定である。

東京秋葉原は、言わずと知れたクールジャパンの中心地であり、訪日外国人に人気のエリアである。JR秋葉原駅徒歩7分、東京メトロ末広町駅徒歩4分、客室数80室。ベストウェスタンブランドで直営展開する。2018年10月の開業予定である。

大阪北浜は、関西の各観光地へのアクセスが良好であるため宿泊需要が見込めるとともに、関西の経済の中心地であるビジネス街でもあるためビジネスユースの宿泊需要も大きい。地下鉄堺筋線北浜駅徒歩1分、130室、ベストウェスタンブランドで直営展開する。2018年12月の開業予定である。

いずれの立地も中長期に需要が見込めるエリアであり、高稼働率が期待できる。

ベストウェスタンブランドでの開業予定（2018年）

	ベストウェスタン 札幌大通公園	ベストウェスタン ホテルフィノー千歳	ベストウェスタン ホテルフィノー東京秋葉原	ベストウェスタン ホテルフィノー大阪北浜
所在地	北海道札幌市中央区	北海道千歳市	東京都台東区	大阪市中央区今橋
最寄駅	札幌市営地下鉄 南北線・東西線「大通駅」	JR千歳線 「千歳駅」	JR山手線・総武線 「秋葉原駅」	大阪市営地下鉄堺筋線 「北浜駅」
部屋数等	地上8階・地下1階60室 (予定)	地上8階154室(予定)	地上11階80室(予定)	地上14階130室(予定)
延床面積	2,324.74平米(予定)	5,281.03平米(予定)	2,045.00平米(予定)	3,722.76平米(予定)
開業時期	2018年2月(予定)	2018年5月(予定)	2018年10月(予定)	2018年12月(予定)

出所：会社資料よりフィスコ作成

価値開発 | 2018年1月22日(月)
 3010 東証2部 | <http://www.kachikaihatsu.co.jp/ir.php>

成長戦略

同社は既存ホテルの宿泊者の利便性向上に向け、様々な取り組みを行っている。その一例として、客室設置型タブレット「イータブ・プラス」がある。この端末は、館内案内を始め、天気予報、電子書籍、周辺観光スポット情報など多言語で提供するもので、外国人観光客の快適な滞在をサポートするものだ。同社スタッフの人的サービスの負担軽減にも役立つツールである。既に10棟での導入を完了している。

宿泊者向けコンテンツを強化

客室設置型タブレット「e e-TaB*®(イータブ・プラス)」導入

- 客室設置型タブレット「e e-TaB*®(イータブ・プラス)」は、館内案内や気象、電子書籍、ホテル周辺の観光スポットの情報など様々なコンテンツを宿泊者向けに提供するタブレット端末です。
- 海外からのお客様にホテル周辺飲食施設の詳しいご説明、近隣主要観光案内等のコンテンツを充実させることで、外国人観光客の増加に対応した多言語対応コンテンツが、快適なご滞在をお約束いたします。


【導入ホテル】

- 『ベストウェスタン山形エアポート』
- 『ベストウェスタンザジャポナイズ米沢』
- 『ベストウェスタン東京西葛西』
- 『ベストウェスタン東京西葛西グランド』
- 『ベストウェスタン横浜』
- 『ベストウェスタンホテル名古屋』
- 『ベストウェスタン大阪塚本』
- 『ベストウェスタンホテルフィノノ大阪心斎橋』
- 『ベストウェスタン沖縄幸福ビーチ』
- 『ベストウェスタン沖縄恩納ビーチ』



■海外からのお客様が快適にご滞在頂ける取り組みを行っております。

出所：決算補足説明資料より掲載

また、主に中国からのインバウンドの利便性向上を目的に、中国国内でモバイル決済シェア最大のアプリ「Alipay」の導入を開始した。同社ホテルの中でも外国人宿泊者の比率の多い大阪心斎橋を始め、名古屋、沖縄の2棟で使用可能だ。ベストウェスタンホテル名古屋では、レゴランドジャパンのオフィシャルパートナーホテルとなった。1DAYパスポート付プランを用意するなど、パートナーホテルとしての様々な付加価値サービスを提供する。

ベストウェスタンホテルチェーンとしての統一性は守りながら、地域特性に応じて特色のあるきめ細かなサービスを提供するのが同社の強みとなっている。

■ 株主還元策

株主優待制度が人気

同社の株主優待制度は非常に人気が高い。2017年3月期株主優待制度の内容は、3月末の1単元以上保有している株主全員に対して、同社グループが運営するホテル及びフランチャイズの一部のホテルを優待価格で宿泊できる券が保有株数に応じて2枚～4枚贈呈された。正規料金で14,000円のスタンダードシングルが5,000円で利用できるなど、割引率が大きい（約6割引）。なお、2018年3月期に関しても、株主優待制度は継続の方針であるが、詳細内容は未定である。2018年3月期は配当の予定はない。

■ 情報セキュリティ

同社では、情報セキュリティ対策として、情報インフラ設備については、コンピュータ・ウィルスの検知及び除去用のハードウェア及びソフトウェアを整備し、様々な予防対策を行っている。今後は、サーバーのクラウド化や情報セキュリティに関する保険の加入なども検討する予定である。

重要事項（ディスクレーマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ